

■（１４４）情報を「守る」と「盗む」の攻防戦、名監督はどう思う

「みかん、デンジャラス（危険）」

警察の記者クラブに所属する先輩記者が、深夜、本社に電話をかけた。「オレンジ〇〇」という組織のトップ（国会議員）への強制捜査を、特ダネで出稿するとの極秘連絡だった。競合紙に察知されることを恐れ、会話を「暗号化」した。インターネットや携帯電話がまだまだ普及していない、約１５年前の話だ。

世界とつながるネットも、無線を使う携帯も、情報漏れが気になった。記者は当初、きわどい話はわざわざ固定電話でかけ直していた。だが、便利さには勝てない。全社員に携帯電話を貸与し、事務所の固定電話を減らす新聞社も出た。

そもそも、「暗号化」の技術が進歩したので「盗聴」の心配は減った、と思い込んでいた。が、違った。米国がドイツ首相の私有携帯を長年にわたり盗聴していたと、現地新聞が報じた。スマートフォンのアプリを通じて、情報や、利用者の位置情報も勝手に入手していたと別の記事で書いている。まさにデンジャラスだ。

川上哲治・元巨人監督が亡くなった。人を事前に派遣して次の相手を探る制度を始めた
とされる。競争に情報収集は不可欠。「でも、正々堂々と」。名監督ならそう言っただろう。
(山)